

しのめ

発行 ● 鳥取県立鳥取東高等学校同窓会 東雲会

鳥取県鳥取市立川町5-210 〒680-0061

TEL 0857-22-8495

FAX 0857-22-8497

Eメール torie-h@mailk.torikyo.ed.jp

出版 ● 株式会社 サラト

兵庫県姫路市北条宮の町172 〒670-0948

TEL 079-284-1380

FAX 079-224-7746

題字 柴山抱海氏（特別会員）



全日本高校女子サッカー県予選で4年ぶりの優勝を飾る
(平成28.11.2 とりきんバードスタジアム)

学 縁

雪に耐えて梅花麗し



鳥取東高等学校同窓会東雲会

会長 常田 享詳（山13）
たかよし

鳥取市は2月に入ってから33年ぶりの大雪（91センチ）で、平年の10倍近くの積雪となり、TVのニュースで連日その様子が放映されました。雪に埋まっているのではと見舞の電話を各地よりいただきました。雪も溶け、梅も桜も咲き、やっと過ぎやすい季節となりました。同窓生の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

さて、昨年8月の東雲会総会で10期20年の間、東雲会の会長として多大な貢献をされた八村輝夫様（山7）に代わって私が会長を引き継ぐこととなりました。八村様を始め東雲会を支えてこられた方々に対し、心から感謝を申し上げます。東雲会は、5年後に創立100周年を迎えます。次世代の方に100周年事業をやりとげていただく中継ぎ役をさせていたたくつもりです。東雲会の組織の再点検と再構築（特に地域支部と職域支部）を目指す所存です。会員各位のご協力をお願い致します。

地方創生が我が国の命題となっていますが、宝島という雑誌で毎年行っている、全国500の市町村の中で最も住みたい町コンテストで、一昨年は岩美町、昨年は鳥取市が第1位に選ばれました。岩美町の榎本町長も鳥取市の深澤市長も鳥取東高の卒業生です。

行政だけではありません。山陰合銀の石丸頭取も鳥銀の平井頭取も、日赤病院の西土井院長も市立病院の早田院長も卒業生です。他にも多くの同窓生が、鳥取で、ふるさと創生の一翼を担って頑張っておられます。私達は、ふるさとのために頑張っている同窓生のことを、もっと知り、もっと話題にしてもよいのではないのでしょうか。一極集中に二石を投じるのも東雲会の気風ではないのでしょうか。同窓会で母校の校歌を歌うと「ああーよい学縁にめぐまれだな」とつくづく思う今日此頃です。甲子園でぜひ一度とも母校そして東雲会の発展を祈って筆を擱きます。



校長
尾室 真郷
(山29)

『校歌に 想いを寄せて』

鳥取東高同窓会「しのめ」会員の皆様には日頃より物心両面からの暖かいご支援をいただき、感謝申し上げます。藤原辰広校長先生の後任として昨年4月から勤務することになりました尾室真郷と申します。今年創立95周年を迎え、いよいよ100周年の足音が聞こえはじめ、伝統校の校長という重責をひしひしと感じているところです。様々な地域での同窓会の集まりに出席するたびに、「同窓生の皆様」の母校に対する誇りと愛情、そして後輩たちへの期待を強く感じている次第です。生徒には「社会のどこかを支える人」を常に訴え続け、また教職員には「生徒自身が大切にされていることを実感する」指導を行うことを使命として本校教育に全力で取り組んでいますので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

「昨年の暮れ、東高校歌の作曲者森山(旧姓田中)妙子先生がお亡くなりになりました。かつての木造校舎にあったすきま風吹き込む音楽室で、中国山地の山脈を眺めながら作られた校歌は今なお、雄大で荘厳な響きがあり歌う者 皆が魅了されます。先生は甲子園球場のすぐ側に住んでおられ、いつかの校歌がここで歌われる日を夢見ていたそうです。その夢も未だ実現していません。必ずその日が来ると信じ、是非、雲の上から聞いていただきたいと思います。この春生徒が卒業する際に校歌の歌詞について想いを伝えました。個人的に最も好きなフレーズは「行く白雲に青春の、希望は燃ゆる不死の鳥」という箇所です。作詞をされた国語の藤原登喜夫先生は当時からひとつひとつの言葉や思想を大切にされる先生で、言葉と言葉の間には素晴らしい結びつきがあります。何故ここに不死の鳥が出てきたのか、どうして思いつかれたのか今は知る由もありませんが、藤原前校長より教えていただいたのが、白雲は古くから希望や自由、理想の象徴として使われること。何処に居ようとくじけそうになった時、空に浮かぶ白雲を見て勇気もらい、全国の東高同窓生が復活・飛躍の象徴である不死の鳥の如く羽ばたき続けることを願っています。最後に本校ホームページに鳥取大学新倉 健先生による『東高校歌四部合唱』を載せておきますので、是非お聞き下さい。

東京支部

東京東雲会からの報告

東京東雲会副会長
奥田真三(山23)

東京東雲会年度総会は、例年7月の第1土曜日に開催ということで、平成28年度は7月2日12時30分から、千代田区霞ヶ関の「法曹会館」において開催されました。

鳥取から東雲会本部谷口肇副会長、母校尾室真郷校長をお迎えし、鳥取県東京本部前田修本部長(山脈26回)、鳥城会(鳥取西高同窓会)小島副会長、翠陵会(八頭高同窓会)井上会長の

ご出席を頂き、山脈1回生から53回生まで幅広い年代の会員約70名の出席を得て開催されました。

第1部 総会では、出席者全員で母校の校歌を斉唱した後、鈴木誠会長(山脈5回)から「毎年同窓生と再会でき



ることに感謝している。今後、若い人に支えてもらい東雲会を活性化していきたいと挨拶され、尾室校長からは、2022年に創立100周年の節目を迎える母校への思い、在校生の活躍など母校の近況についてお話されました。

第2部懇親会では、林田英樹副会長(山脈12回)の挨拶に始まり、常田照雄さん(山脈18回)の公演と続き、西村和義前会長(山脈1回)の乾杯の発声で、懇親会に移りました。

まず、横山 勇さん(山脈5回)の貝殻節の披露、続いて中島睦夫さん(山脈5回)プロデュースによる、若手芸人による漫才、途中マジシャンの飛び入り参加、豪華景品の当たる恒例の福引大会と楽しい催しが続き、参加者は故郷や母校に思いをはせ、青春時代を振り返りながらなごやかに懇談し、最後に「ふるさと」を全員で合唱し、来年の再会を誓って散会となりました。

東京東雲会では、この他年2回の幹事会を開催し、交流と懇親を深めております。

鈴木会長からのお話のとおり、もっと幅広い年代、特に若い人の参加を得て、更に活性化をと考えております。本年度総会は7月1日(土)「法曹会館」で開催します。皆様お誘い合せの上、多くの皆様のご出席をお待ち致しております。

なお、事務局は以下のとおりとなっておりますのでお知らせ致します。

〒100-0001
東京都千代田区幸町2-12-1
日本プレスセンター3階
鈴木・曾我法律事務所内
電話 03(3503)7272

東海支部

平成28年度東雲会東海支部活動報告

東海東雲会会長
中川 澄(山17)



H28・8・25(木)支部総会案内・返信葉書+振り込み用紙260枚をサットへ発送

H28・9月初旬 株式会社サットから支部総会案内255通の発送
H28・11・5(土)東雲会東海支部総会・懇親会

東雲会副会長川口東洋輔氏、鳥取東高校校長尾室真郷氏、事務局長滝波和宏氏を鳥取から来賓としてお迎えして開催いたしました。

昨年は東雲会本部に応援して頂き、名簿で把握できている東海地区(愛知・岐阜・静岡・三重)在住の全員255名に支部総会の案内を発送致しましたが、前年と同じく4名の参加でした。少人数ではありましたが、母校の話題などの話で大いに盛り上がりました。今年度は、一部会員より日曜日より参加出来るとの意見がありましたので11月12日の日曜日の開催と致します。1名でも参加者があれば開催致します。

また、今年度は、会報の発行を実現したいと思っております。総会案内と同時に発送したいと考えています。

29年度の情勢は好景気を予想されている方も何人も居られるようですが、余り好材料は無いと思います。世界的に小社会を大切にしている傾向が強くなっているように感じます。

それでは上手にいかないことを人類は大いに学んできたはずですが、学習しない人も多数居ます。ハッタリト

ランプの力も議会には適用しないことが明らかになりつつあります。世の中は面白いことが多すぎて、残された時間はドンドン少なくなりますが、やりたいことは段々増えて焦りを感じるこの頃です。 以上

京阪神支部

第66回京阪神
東雲会総会・懇親会

当番幹事代表

矢田克明（山33）

昨年の平成28年11月19日（土）、京阪神東雲会（鳥取二中・鳥取東高同窓会）総会・懇親会を大阪キャッスルホテルにて開催いたしました。

今年度は総勢71名のご参加に加え、深澤鳥取市長様をはじめ尾室鳥取東校長様、常田東雲会会長様、滝波東雲会事務局局長様、伊藤鳥取県関西本部長様他多数のご来賓の方々にもご列席頂き、華やかな総会・懇親会となりました。

ご来賓の深澤鳥取市長様には、「最近の鳥取事情」と題しご講演を頂き、会員の皆様が最近の故郷の情勢について、興味深く聞き入っておられました。

また、尾室校長様、常田東雲会会長様より、母校の近況並びに地元東雲会の活動状況などについてご講話頂きましたが、かつて存在した幾つかの運動部が廃部となったお話や、校舎近隣にコンビニが立地しているお話などに対し、多数の方々より驚きの声があがっていました。

本総会・懇親会は当年度の幹事である私たち33期京阪神東雲会同期6名で昨年当初より準備を行って参りましたが、当日は地元鳥取や大阪より7名もの33期同期生が応援に駆け

つけてくれるなど、久々に同窓の連帯を噛みしめる機会ともなりました。懇親会では、東雲会事務局、鳥取県関西本部より頂戴した地元のお酒や食材を皆で美味しく頂きながら、世代や地域を超えた交流が図られた他、恒例の「鳥取〇×クイズ」も行われ、和やかな雰囲気の中、楽しい時間を過ごすことが出来ました。

最後になりましたが、今後ますます京阪神東雲会並びに鳥取東高東雲会の交流が発展することをお祈りし、私の挨拶とさせていただきます。

鳥取市役所
東雲会

鳥取市役所東雲会報告

市役所東雲会前会長
坂本 雄司（山26）

鳥取東高卒業生で構成する鳥取市役所東雲会は、顧問に深澤義彦市長をはじめ4名の市議会議員を擁し、会員数は現在約

370名にも上る市役所内最大の卒業生の会です。会員は、市役所、水道局、市立病院及び東部広域行政管理組合で構成しています。

歴史を辿れば、会規約が昭和57年9月22日施行であることから、発足して未だ35年で母校の歴史に比すれば孫のようなものです。発足経緯は、昭和57年6月22日母校の60周年記念式典の開催を機に、当時西高出身者の鳥城会があり、東高出身者の会がないことを憂慮された往時の職員先輩諸氏が東雲会実現に尽力されたことです。

会員は、発足時約300名で、平成16年11月近隣8町村との合併により約400名を数える時期もありましたが、自治体職員の定員適正化の影響により現在の会員数となっています。

会の事業を振り返れば、往時はボウリング大会等レクも行っていたとのことですが、その後は、夏は暑気払いとして夏季錬成会と称し焼き肉を行い、冬は総会を開催し事業方針と予算を決めています。開催時は必ず同窓会会長、副会長、学校長をお迎えしており、若者男女が和気藹々と思い出話や上司への思いを述べ、ストレス解消と職域を越えた親睦を行っています。

また毎年、母校のスポーツ、文化などのクラブ活動に対して助成金を援助し、更には全国規模の大会に出場する選手、団体への支援を行っています。

本市は、山陰東部圏域の発展の基盤を築くため、平成30年4月には中核市となります。個々の職員の資質向上とともに部署の枠を超えた一層の意思疎通が必要です。市役所東雲会は、今後も職員の繋がりと業務の円滑化の一助として、市政の発展に寄与してまいります。更に微力ですが、「廻る世紀の幽軍」の小さな一つとして、創立95年を迎える母校を支えて行きたいと思えます。



世代を超えた同窓会 ツナガル

井上法雄（山31）

私がちょうど鳥取東を卒業する頃（昭和55年）に、今のパソコンの原型と言われるワンボードマイコンが登場したデジタル創世記でした。高校卒業後パソコンを趣味として現在のICT企業（インターネットサービスプロバイダー）の起業につながりました。今、鳥取東高100周年を迎える年。時代は、まさに大きな転換期を迎えています。少子高齢化、人口減少、経済需要の縮小等、多いときは13クラス（私の頃は10クラスありましたが）あったと聞きますが、今は7クラスになり私どもの経験則のない時代に入りました。その変化とともに、今までは存在しなかったICTの発達により、すべてのモノ（コト）がインターネットにつながるIoT社会の始まり第4次産業革命と言われ、その社会構造も大きな変化の時を迎えています。IoTとはアナログのデジタル化と言われています。より鮮明にアナログとデジタルが区別され活用される時代となります。それと共に、ヒトとヒトのつながり方にも大きな変化がおこり、ソーシャルメディアの登場によりコミュニケーションの手段が大きく変わりました。フェイスブック（デジタルで鳥取東卒業生の仲間が集い、環境大学の足利裕人先生（山脈20）鳥取東高校現尾室校長を訪ねて開催を相談した時に桜の時期を発案いただきアナログの極みであるお花見同窓会をしよう（世代を超えた同窓会）とフェイスブックのイベン



トで声かけしました。その始まりは、山下篤男（山脈17）さんがフェイスブックで鳥取東高校の卒業生のグループの「おせっかい食堂で同窓会」でした。フェイスブックという新しいソーシャルメディア（デジタルを媒体として卒業生がまた卒業生をつないでいき、普段では関わるこのない方々とも大きなアナログな「つながり」となりました。今まさに大きな時代の転換期の中、鳥取東高校も100周年という節目で、卒業生が学校の外から新しい「つながり」と同じ「思い」を持ち、目的を共有していく、その手段としてのソーシャルメディアを通してつながっていく現在の学生たちにも、その偉大な先輩方の活躍、功績を伝えることも可能です。卒業してから卒業生が鳥取東高に新しい付加価値を創り続けられれば、単に進学する目的であったり、偏差値により学校を振り分けられるのではなく、「夢」を持ち、「鳥取東高に行きたい」という次代を担う子供たちの目指す学校となっていくと思えます。と記念誌向けの文章を書きましたが、東高の卒業生は世代を超えていろいろな分野の人が集まりソーシャルメディアで行けば卒業生ということと山下さんがコピーをおこしてくれたら、モグラ屋さんに行けば若本社長が熱く語ってくれたりとか、卒業してから、もっと楽しい鳥取東高校であればその学校としての価値も増すと思えます。

退任ご挨拶

前東雲会会長 八村輝夫（山脈）



平成28年8月の東雲会総会をもって、私は、東雲会会長を退任し、後任に常田享詳さん（山脈13回）が就任されました。平成8年より20年にわたる長い間、副会長はじめ役員の皆様を支えられて、無事東雲会会長を務めさせて頂き、誠に有難うございました。

此の間東雲会名簿第11号を発行し、高校創立80年事業で同窓会館「しのめ」の完成、それを機に事務局の開設、会報「しのめ」を創刊することができ、同窓会が「同窓生の役に立つ同窓会」の体制作りがある程度できたと思っています。また、雨天野球練習場建設、柔道稽古場の改修、教育振興会の制度の改変等在校生のために少しは役に立つことができました。

平成二十八年度 会務報告

★六月、同窓会報「しのめ」第十二号を発刊しました。

★六月二十三日（木）創立九十四周年記念式典が挙行されました。

★七月二日（土）東京東雲会総会に谷口肇副会長（山8）、尾室真郷校長（山29）、十一月五日（土）東海東雲会総会に川口東洋輔副会長（山12）、尾室真郷校長（山29）、滝波和宏事務局長（山24）、十一月十九日（土）京阪神東雲会総会に常田享詳会長（山13）、尾室真郷校長（山29）、滝波和宏事務局長（山24）の本部役員が参加し、交流を深めました。また、京阪神東雲会総会には、森田靖彦副会長（山30）が鳥取県職員として参加されました。

今年、二年ごとに行われる役員改選があり、平成八年八月より十期二十年間の長きにわたり多大な貢献と尽力をいたしました。

この20年は日本経済が長期停滞の時期に入り、平成19年にはリーマンショックがあって、日本が本格的な少子高齢社会に入っており人口減少が始まりました。就任当時の東高は11クラス、現在は7クラスと生徒数が大幅に減ってしまいました。通信技術が飛躍的に進歩し、通信手段がインターネット、スマホへと変わってしまいました。人々の考え方の多様化、社会が大変革を起こした時代でした。

同窓生が減少し、学校への帰属意識が薄くなっていきます。個人情報に非常に敏感になり名簿に住所、職業等の空欄希望が多くなりました。中には同窓会から脱会したいという希望まで出るようになりました。同窓会入会のメリットを求められる時代になろうとしています。鳥取東高は鳥取で次第に評価を上げてきていますが、生徒数の減少、私立高校の創設など取り巻く環境は厳しくなっています。鳥取東高、同窓会東雲会のますますのご隆盛をお祈りします。

だきました八村輝夫会長が退任され、常田享詳会長が就任されました。副会長等を含めた今回の改選は、二〇二二年の創立一〇〇周年を展望して別記のとおり承認されました。

★八月六日（土）本部同窓会総会が開催され、京阪神当番幹事の伊達知子氏（山33）をご来賓にお迎えいたしました。

★平成二十九年二月二十日（月）、二十一日（火）の両日に、鳥取東高の食堂「おせっかい食堂」にて、同窓会の後援事業として「食育フェア」が開催され三百円という安価な値段で多くの生徒、職員に昼食が提供されました。



常田新会長のご挨拶

平成28年度 鳥取東高校同窓会

（東雲会）役員表

〔任期〕平成28年8月～平成30年7月

氏名	期
会長 常田 享詳	（山13）新
副会長 中村 忠文	（山21）
安住 庸雄	（山24）
清水 昭允	（山6）
川口東洋輔	（山12）
前田八壽彦	（山14）
上杉 榮一	（山17）
谷口 節次	（山19）
井上江美子	（山22）
坂本 雄司	（山26）
山上 弘子	（山28）
森田 靖彦	（山30）
中島 諒人	（山35）
谷 英憲	（山41）
木村 憲司	（山47）
林 良行	（山19）
高垣 美恵	（山22）
八村 輝夫	（山7）
榎本 武利	（山21）
深澤 義彦	（山22）
尾室 真郷	（山29）
滝波 和宏	（山24）
木下 一朝	（山29）
福田興志郎	（山53）
村上 千春	（山39）
事務局専任	
顧問	
顧問（校長）	
事務局次長	
事務局専任	

退任役員

氏名	期
会長 八村 輝夫	（山7）
副会長 倉恒 貞夫	（山3）
谷口 肇	（山8）
四宮 昭彦	（山15）
福美 秀敏	（山24）
井上 哲夫	（山13）
吉多 正乃	（山13）
森本 政司	（山11）
事務局次長	
監査	
顧問	
事務局専任	

常田享詳新会長の主な経歴

- ◎昭和37年3月 鳥取県立鳥取東高等学校 卒業
- ◎昭和41年3月 東京薬科大学 卒業
- ◎昭和50年4月 常田薬局（自営）
- ◎昭和53年11月 鳥取市議会議員選挙 当選
- ◎昭和58年4月 鳥取県議会議員選挙 当選（3期務める）
- ◎平成7年7月 参議院議員選挙 当選
- ◎平成12年7月 参議院議員選挙 当選
- ◎平成13年7月 参議院議員選挙 再選
- ◎平成15年1月 参議院農林水産委員長 就任
- ◎平成16年9月 農林水産副大臣 就任
- ◎平成19年9月 農林水産副大臣 就任
- ◎平成21年9月 農林水産副大臣 就任
- ◎平成21年9月 農林水産副大臣 就任
- ◎平成27年5月 旭日重光章受章

新任ご挨拶

東魂伝説

同窓会副会長

谷 英憲（山41）



「西高に行ったら甲子園に出るのは当たり前だ。東高に行ったら伝説を作れ！」

中学3年の冬、野球部の監督が発したこの言葉が胸に突き刺さり、1987年4月、東高の門をくぐりました。来る日も来る日も白球を追いかけて、後に「レジェンド」と称される大先輩・山本美知明監督のご指導

新任ご挨拶

同窓会事務局長

滝波和宏（山24）



伝統ある鳥取東高の同窓会事務局長の任に就き、身の引き締まる思いで一杯です。

私が鳥取東高3年の時に「創立50周年」を迎えました。そして5年後（2022年）に「創立100周年」を迎える時期に、前任者の森本政司先生から事務局長の任を引き継いだことを誇りに思うと同時に、微力ながら母校のために貢献したいと考えています。創立100周年に向けて、「母校鳥取東高における不易と流行」をコンセプトに色々と企画をできればと考えています。

同窓会のあらゆる事業は、同窓生の皆様のご協力が必要不可欠です。今後とも母校の発展、同窓会の隆盛のために皆様のご支援をお願いいたします。

第5回東雲会長杯 ゴルフコンペのご案内

〈大会役員〉

東雲ゴルフ大会会長 常田 享詳

実行委員長 安住 庸雄

副委員長 橋本 和憲

〈実施要項〉

一、日時 一〇月九日(祝)

開会式 午前七時五〇分

スタート 午前八時一六分

二、鳥取カントリー倶楽部(吉岡)

三、エントリ要領

卒業期単位、卒業期混成、

職域(東雲会員)何れでも可

申込用紙に必要事項を明記

四、

競技方法

ダブルベリア方式

五、参加費 一、〇〇〇円

(表彰式を含む)

プレー費 八、〇〇〇円

(食事つき)

六、表彰式 当日、会場にて

七、詳細は各組代表者に連絡します

八、申し込み九月二五(月)締め切り

①従来、東雲ゴルフ会にご参加の

方には鳥取カントリー倶楽部

(吉岡)から往復乗車でご案内い

たしますの申し込み下さい。

②ご案内の届かない初参加ご希望

の会員の皆様は

東雲会長杯

実行副委員長 橋本和憲

スポーツショップハート

TEL・FAXとも

0857-2117711

にお申し込み下さい。

③その他、問い合わせ・お申し込み

は(専任職員)勤務は火・木曜日

〒680-0006

鳥取県鳥取市立川町5丁目210

鳥取東高同窓会事務局

滝波和宏(山24)

TEL 0857-2218495

FAX 0857-2218497

第4回東雲会長杯 ゴルフコンペ報告

実行副委員長

橋本 和憲 (山16)

平成28年10月10日(祝)鳥取カントリー倶楽部吉岡温泉コースに於て第4回コンペが開催されました。好天に恵まれた秋の一日は同窓会の参加者の皆様には楽しく過ごしていただけなことと思います。

同窓会活性化の一環として開催された当コンペは第1回63名、第2回65名、第3回60名と多くの参加をいただいておりますが第4回は28名と大幅な減少となってしまいました。原因としては地域のイベントとの重複、行楽シーズンでの旅行企画への参加等が重なり少数での大会となつてしまいました。

今年度は参加人数を増やす為に下記の内容で皆さんに参加者募集をお願い致します。

一、ハガキによる案内を約2ヶ月前にする。

二、同級生、職場、旧部活単位での呼び掛けを行う。

三、一人での参加、プレー回数が少ない方への参加を促すために過去の参加者履歴、他のコンペ等参考にお願

います。

第五回コ

ンペは60名

以上のご参

加目標に致

したく思ひ

ます。皆様

のご協力を

お願い致し

ます。



成績と参加チームの紹介

優 勝	準 優 勝	3	4	5	6	7	8	9	10
橋本 和憲	瀧 俊夫	谷 和史	山 道彦	藤 誠	井 正人	奥 秀行	山 徹	根 秀行	根 秀行

〈山24・山6〉

安住 庸雄

岸本 睦永

清水 昭允

森田 道彦

西山 林一

〈山16・24・29〉

西山雄一郎

橋本 和憲

藤田 誠

福井 一之

井関 顕人

鳥取東高等学校同窓会東雲会 定期総会・懇親会のご案内

日 時 平成29年8月5日(土) 午後4時

会 場 「対翠閣(しいたけ会館)」

鳥取市富安一丁目84

☎ (24) 8471

総 会 (午後4時) 7階会議室

懇親会 (午後5時) 1階大広間

懇親会費 4,000円

東京東雲会の夕べのご案内

日 時 平成29年7月1日(土) 12時30分~

会 場 「法曹会館」 千代田区霞が関1-1-1

☎ 03-3581-2146

会 費 一般 5,000円 学生 1,000円

東海東雲会総会のご案内

日 時 平成29年11月12日(日)

12時~14時30分

会 場 名古屋クラウンホテル

(地下鉄「伏見駅」徒歩5分)

総会・懇親会

会 費 男性:7,000円 女性:5,000円

夫婦同伴:10,000円 学生:2,000円

初めての方:3,000円

京阪神東雲会総会のご案内

日 時 平成29年11月18日(土)

12時受付 12時30分~15時

会 場 中之島LOVECENTRAL

〒530-0047 大阪市北区西天満2-1-18

☎ 06-6362-1000 <https://love-central.jp/>

懇親会費 7,000円(京阪神在住の方は+別途年会費1,000円)

最寄り駅 梅田から徒歩15分、堂島川沿い

同窓会報「しのめ」 第12号の協力金納入の現況

同窓会員の皆様には、多大なご理解とご支援をいただきまして厚くお礼申し上げます。

第12号の協力金納入は次のとおりです。

(平成29年3月10日現在)

★会員発送数	20,557冊
★協力金入金件数	1,818件 (前年比147件増)
★実質の協力金入金	2,732,160円 (協力金-振込手数料) (前年比258,780円増)
★必要経費(会報・封筒の印刷、郵送費等)	3,234,850円

★第10号の納入状況は、協力金が必要経費を約100万円下回っていました(赤字)。第11号では約77万円、第12号では約50万円の赤字で、少しずつ赤字幅が減少していますが依然苦しい状況です。今後も一層のご協力をお願いいたします。

創立100周年(2022年)に向けた特別企画

同窓生による対談

実施日 2017年3月22日(水) 於 鳥取東高 同窓会館 事務局

【対談の流れ】

- (1) 母校に対する思い出とそこから学んだこと
- (2) 組織を経営する者として、教育現場に望むこと
- (3) 同窓生(卒業生)としてかつ学校外の組織の経営者として、母校鳥取東高に望むこと
- (4) 100周年以降の鳥取東高が持つべきビジョンへの提言

【対談：抜粋】(文中敬称略)

校長：本日は対談に参加していただきましてありがとうございます。まず「母校に対する思い出とそこから学んだこと」というテーマから始めていきたいと思っています。創立当初、林重治校長が「師弟同行」「自由闊達」な校風を目指され、石丸さんたちが在学中に創立50周年を迎えた当時の前田忠雄校長もその校風を継承されました。その校風の下で、石丸さん、平井さんの母校に対する思い出とそれから学ばれたことを述べていただきたいと思っています。

石丸：今でも当時の学校行事の時の写真が多く残っているのですが、それらを見て特に印象に残っているのは、大山での高原教育、東浜での臨海教育です。当時先輩から聞いた話によると、私たちが鳥取東高に入学する2、3年前に修学旅行がなくなったとのことでした。私は漁科生だったので、ことさら海で泳ぐことは珍しくはなかったのですが、友人と山や海で過ごしながら「青春を感じた」と実感しています。

校長：今、石丸さんから学校行事が思い出に残っているというお話がありました。私は平素から生徒たちに「三鬼を追え！」ということを提唱しています。「三鬼」とは「勉強」「部活」「学校行事」の三つです。学校行事に生徒、職員が一体となって取り組み、皆がそれを楽しむのが鳥取東高の伝統だと思います。

平井：私も同感です。私の場合、臨海教育が最も強いインパクトがありました。遠泳で遠い所へ泳いで行かされ、塩水を飲んで苦しかったことを覚えています。その時は「塩水を飲んで鼻が痛い、のどが痛い」と思いましたが、泳ぎ切った時「自分は泳いだのだ」という達成感と充実感を感じ、それが後の人生で大いに役立ったと思います。

校長：今まさに平井さんの言われていたことが「克服教育」と呼ばれるものです。「山を登る」「海で泳ぐ」「マラソンで長距離を走る」などがそれです。これらすべてが現在廃止となっています。

石丸：8km近く走っていた校内マラソン大会がなくなっただけですか？それは残念です。

です。

滝波：我々が中学生だった頃、進学する高校を決める時に、勉強と共にその高校の学校行事や学校生活が楽しいかどうかという点が大きな要素の一つだったと思います。それが、それについて何かありますか？

石丸：私も確かに鳥取東高は学校生活が楽しそうでした。部活も本気でできそうだったと思って受験した覚えがあります。高校1年生の時に鳥取東高を選んで良かったと思ったのは「学校生活の中の明るさ」を感じたからです。当時、昼休みに中庭でギターを弾いて歌っている生徒もいました。自分は昼休みには汗びっしょりになりながら体育館で多くのクラスの生徒と一緒にバスケットボールをやっていました。

校長：当時、3限と4限の間の休憩時間に学校の食堂でラーメンやうどんを食べていたことを覚えています。

石丸：そうですね。3限と4限の間の休憩時間に食堂で食事をして、昼休みには体育館で力一杯遊んでいました。

平井：自分たちの時も、3限と4限の間の休憩時間に教室で弁当を食べ、昼休みに食堂でさらに食べていたというイメージがあります。先程の高校の選択の話ですが、私の場合は鳥取東高にプールがあると、これが大きな要素の一つでした。

石丸：プールがあるということが、選択条件の一つだったのですか？

平井：そうですね。私は鳥取東高のプールでも泳ぎたいと思っていました。

校長：石丸さんや平井さんが中学生だった時、勉強や進路実現の状況と共に、学校生活や学校行事の楽しさが進路決定の大きな要素の一つであったということがよく分かりました。それは次の話題に移りたいと思います。鳥取東高の教育で得たもの、当時習った先生方の思い出等についてお話をうかがいたいと思います。当時は成績上位者の氏名が廊下に貼り出されていました。

石丸：成績上位者の氏名が貼り出されていた？あまり記憶にありませんね。

それを覚えていないのは石丸君らしいし、そんなことはあまり気にしない彼の人柄をよく表しています。

平井：私の場合は順位が貼り出されていたのは結構プレッシャーを感じました。

校長：当時の授業についてはどうですか？

平井：授業で一番インパクトがあったのは、小川聰先生の英語の授業でした。非常に役に立ちかつ楽しい授業でしたが、時々先生からチョークが飛んできたりもしました。中にはそれを投げ返している生徒もいました。とても釣りの好きな先生で、自ら釣ってきた魚を文化祭の時に教室に飾ったりしておられました。自分は歴史が好きだったので、松尾茂先生の授業は特に印象に残っています。当時は個性のある名物先生がたくさんいらっしゃったような感じがします。

校長：石丸さんはどうですか？

石丸：私は中学から高校に入学する春休みの間に吉川英治の「三国志」を読んで漢文にとっても興味を持ちました。1年生の時に門脇正雄先生に教えていただいた漢文の授業があったと思いますが、それがとても楽しかったです。数学の坂尾哲夫先生の授業も印象に残っています。中学の時は数学が得意だったのですが、高校に入ってから2年で数学が難しくなると感じたのを覚えています。

私に属していた理数コースというクラスは、文系と理系の生徒がいるクラスでした。私は2年生の時までは医学部志望でしたが、医学部に進学すると「人体解剖」などもやらなければならないことを知り断念しました。実は私は理科の実験でやった力エルの解剖が苦手でした。地理の小島陽吉先生にも思い出があります。鳥取駅で列車に乗っておられた先生が降りて来られて、「帽子をかぶれ！」ときつく叱られたのを覚えています。

校長：今、帽子の話が出てきましたが、かつては「自由がある中にも規律を守ることが求められていた」が、そのあたりについてはどのように感じていましたか？



石丸文男氏

石丸：基本的な生活のルールは厳しかったように思います。しかし、必要最低限の基本的なルールに対して厳しかったのであり、それ以外の部分では結構自由にやらせてもらっていたと思います。昼休みに食事を取らずに運動したり遊んだりしているのは、規律的には好ましくないように思われるが、それに関しては何かおとがめもなかったと覚えています。最低限のルールを守っていれば、色々な自由を謳歌できる環境があったと思います。

平井：朝の遅刻とか、時間を守るといふことなどはとても厳しかったが、イメージ的には学校生活の中に、色々な自由があったという印象を強く持っています。

石丸：頭髪指導は結構厳しくて、職員室に呼び出されて指導を受けた経験もあります。校長・結構長髪が流行っていた時代でしたね。

平井：そうですね。髪型に関してはかなり厳しい指導があったのを覚えています。

滝波：生活指導部に柔道部の顧問の中井先生がいらして、物差しを持ってこられて「0から10だ」と言いながら、髪を長さを点検されていました。



平井耕司氏

校長「そのような状況の中で、なぜみなさんは自由を感じていたのでしょか？」

平井「生徒が社会に出てから困らないようにするための基本的なルールに厳しかつたのであって、それ以外のことに限ってはいない意味での寛容な環境を先生方が作ってくださっていたからだと思います。」

石丸「必要最低限の基本的なルールというのは、高校生が社会に出てから役に立つものだと私も思います。昼休みに中庭でギターを弾いて歌を歌っているのは他の人にそれほど迷惑をかけるものでもないし、そういうことに対して寛容な雰囲気があったと思います。」

校長「『任務』と『責務』を果たした上で自由を謳歌するということです。」

石丸「自由の裏には義務と責任があります。当時の鳥東高にはそれらを果たした上で自由を認められるという状況があったと思います。」

校長「それは次の話題に移らせていただきます。現在、教育が大きく変わろうとしています。今度の中学3年生が大学受験を迎える時に、大学入試センター試験がなくなります。大学入試というものが大きく変わります。問題解決ができる「自ら学ぼうとする力」を測る試験になると言われています。」

す。この春どんな問題になるかが提示される予定です。例えば、英語の試験は民間が実施する試験(トールやトイック等)で代用できるようになります。また、大学によっては、世界史の試験に数学が必要になったり、図書館に行つて情報を集めてくる、理系では実験室で自ら実験をしてくるなどというような試験になる所もあるようです。」

石丸「そうなるとうと、高校の現場の教育は今までとおりには行かなくなりそうです。」

校長「このような状況の下で、これからの高校生にどんなことを期待されますか？」

石丸「社会人になって必要なことのベースは素直さだと思います。『素直さ』がないと他人を受け入れることができません。色々な人から言われることをまず自分の中に吸収しないと、次の『発信』ができません。『色々なものを自分の中に取り込む力』があることが望ましいと思います。そのためには人の言うことを聞く力を養うことが肝要だと思います。松下幸之助という人は、とても聞き上手だった。もちろん彼は話すことも上手であったと思いますが、それにも増して人が十二分に言うまでしっかりと人の話を聞いたそうです。人の話を十二分に聞く、そのためには『素直である』ことが必要です。ただ、それをどのように教育に結びつけるかは容易なことではないことも分かりますが……」

校長「平井さんはどうですか？」

平井「最近の若い人の中には『明確な目標』を持っていない人が少なからずいるような気がします。高校生には『欲』を持ってほしいと思います。勉強でも仕事でも遊びでも、『今自分が何をしたいのか』という『欲』を持つことが大切です。このことが今一番強調したいことです。言い換えれば、『欲』がないために『待ちの姿勢』になつていように見えます。『欲』をもつてすべてのことを主体的にやっていくことが必要だと思っています。それを高校時代に養う環境があれば、進学においても就職においても、大いに役立つと思います。」

校長「今、平井さんがおっしゃった『受動的で待ちの姿勢の生徒』に主体性を持たせる何らかの仕掛けが学校現場に必要だと思ひますが、その点に関してのご意見をうかがいたいと思います。」

石丸「『生徒が楽しいと思うもの』が学校生活の中で減ってきているのではないのでしょうか。もし『やらされている』という気持ちが強くなっているとしたら、そこが主体性が育たない原因かも知れませんね。今の子どもを見てみると、『楽しい』ことも『辛い』こともあまりなくなつてしまつて、生活体験が平坦になつていようと感じられます。」

校長「その意味において、鳥東高においては昔も今も『学校行事』というものが重要だと言えますね。」

平井「私の場合は、高校時代にテニス部に入つていましたが、1年生の時は半年間は球拾いばかりで辛い時期を過ごしましたが、その後コートに立てるようになります。本当に楽しい時期を過ごしました。臨海教育の遠泳も、その時は辛かったけれど、その経験が社会に出た後大いに役立つと思ひます。」

校長「今、石丸さんと平井さんが言われたように、学校生活の中で辛いこともある中で『生徒たちが輝ける場所』を作っていくことが大切であると感じました。言い換えれば、建設的な意味での楽しい思い出をたくさん作つて、鳥東高での生活は本当に良かった」と生徒たちが感じられる環境を作る必要があると感じました。」

石丸「『小学校での楽しい思い出』『中学校での楽しい思い出』『高校での楽しい思い出』はそれぞれ違つていて、社会に出てから一番思い出出すのが高校時代のことだと思ひます。高校生の時代は感受性も強く、色々なことを自分の中に取り入れられるので、色々なことを経験すべき時期です。色々なことが体験できる高校生活を送らせてあげてほしいと思います。」

平井「今、石丸さんがおっしゃったことを、学校の外に求めることも可能だと思ひます。高校時代に色々な業種の人たちと触れあつたような機会を作ることも必要な気がします。その出会いから色々な世の中の移り変わりに触れることができて、高校生の進路決定にも大いに役立つと思ひます。また鳥取の外に出られた方から『外から見た鳥取』についての話を聞くことも重要だと思ひます。県外に出て成功している方も多くいらつしやるので、その人たちから話を聞く機会があればさらによいと思ひます。」

校長「現在、鳥取の若者特に高校生が県外に流出していく傾向がありますが、彼らに地元で活躍してもらうために何が必要だとお考えになりますか？」

石丸「私が勤務している銀行が8年くらい前に松江に『私塾』を開きました。土曜日に前にも松江に『私塾』を開きました。土曜日の生徒たちが集まり、自分たちの郷土の歴史や先人たちのについて学んでいます。この私塾を開いた目的は、小学生たちに自分たちの郷土を好きになつてもらいたいという願いからです。小学生の4、5、6年から始めて、中学生や高校生になつても継続していききたいと考えています。そしてその生徒たちの中の何割かでも地元に戻つてきてくれたら有り難いと思ひつています。小学校の頃から地元のことをよく知つてもらいたい、こういう所から始めていくべきだと思ひます。」

平井「海外に行つてよく感じることですが、日本人が日本のことを誇りを持って主体的に話すことが少ないように思ひます。自分の国のことを誇りを持って自慢できるようでありたいと思ひます。同じことが自分の郷土にも当てはまると思ひます。地元を誇りが持てると、そこに帰つてきたいと思ひようになります。そこでポイントとなるのが、生徒だけではなく保護者にも情報発信する必要性があるということです。『鳥取に帰つてこなくていいよ』と言う保護者も少なからずいると聞いています。」

石丸「今、平井さんが言われたことは確かにあると思ひます。鳥取にもたくさん働きの良い企業があるのですが、その情報がいかに保護者の方々に伝わっていないことがあると思ひます。現状を鑑みると、いつた県外に出た若者に鳥取に帰つてもらうのは極めて厳しい状況にあると感じます。それを打開するためにも、小学生の頃から地元のことを伝えていく努力をする必要があると思ひます。平井さんがおっしゃっていましたが、自分の地元を自慢できないというのは寂しい限りです。」

平井「同感です。自分の国、自分の地元を誇りを持てるように子供たちの置かれた環境を変えていく必要があると痛感します。」

校長「最後の話題に入りたいと思ひます。5年後に創立100周年を控えて、次の50年、100年を見据えて、母校や後輩に対して何か提言をお願いします。」

石丸「『長く続く友だちができる学校環境』であつてほしいと思ひます。『いい友だちができる環境』がないと単なる『塾』になつてしまつておそれがあります。同時に勉強以外に仲間作りができるような機会を与える環境であつてほしいと願つています。」

校長「現状は学校生活の中の『克服経験』も失敗経験も段々少なくなつていきます。平井「多くの失敗をする経験は絶対必要です。失敗は人生の糧になります。母校の鳥東高が、人と人のつながり、絆を作るような環境であつてほしいと強く思ひます。」

石丸「地元に残っている人の中に、長く続いている友だちがいると、鳥取に帰つてきたいという気持ちになると思ひます。これから高齢化社会を考えると、退職後に鳥取に帰つてきてやれることはたくさんあると思ひます。そんな時に長く続く友人の存在は大きいと思ひます。」

校長「長時間に渡つての対談、ありがとうございました。今日お話ししていただいたことを、生徒、教職員と共有しながら、今後鳥取東高の発展のために頑張っていきたいと思ひます。」

我ら同期生

「山六傘寿同期生会」

宮本 卓郎（山6）

平成二十八年初夏、米子皆生温泉に東は東京、西は鹿児島より四十三名が集った。

銘打って「山六傘寿同期生会」。三十一年間、回を重ねること十二



回。よくぞ続いたものよ、が山六皆さんの実感。会は前回琵琶寿同期生会以降に旅立った友を偲んで黙禱に始まり、宴は清水昭允君の祝吟で開宴。今回は芸人小林、山根両君欠席でやゝもの静か。山六同期生も齢八十、これが「最終楽章」の予感と元気で久し振りの再会の嬉しさ懐かしさ。哀歓ともごもの「八十路同期生会」でありました。

後日、数年前にご主人に先立たれたHさんからの便りに「ずっと落込んでいましたが、同窓会でのビール美味しくいただき元気が出ました」とあり、「同期生会やってよかったね」とは、世話役の皆さんの感慨でした。老いて尚元氣印の諸兄姉からは、最終等と云わず次回も米寿までも声あり。何やらアンコールに応えねば、と思わせる「傘寿同期生会」でもありました。

山脈13回
卒業55周年同窓会

青木 敏昭（山13）

山脈13回生は、鳥取大震災の年（昭和18年）に生まれた。地震子と呼ばれたそう。奇しくも、前日に鳥取県中部を中心とする大地震が起きたが、10月22日に無事開催の運びとなった。

司会は米澤（山崎）洋子さん、物故者への黙禱に続き開会。恩師2名が元氣に出席下さり、山本孝雄先生88才、5回の手術の経験から定期健康診断の大切さを語られ、長石肇先生（84才）は、3日の担任をおして教師として自信を持てたと話された。



乾杯の発声は岩村育夫君（上尾市在住）県外から参加の8名が近況報告をし、8月の鳥取東高同窓会東雲会総会で同窓会長に選任された常田享詳君が、新会長としての抱負を語った。

盛り上がりは、服部（西垣）千恵子さん指導によるグッパ―体操で、出来た、出来ないは大はしゃぎとなった。あつという間の3時間、那須俊明君が「次は喜寿の年に」と宣言し、井嶋克夫君の納杯、校歌斉唱、一本締めでお開き、喜寿同窓会での再会を約してそれぞれ気の合う仲間と二次会へと散会していった。

なお物故者は、3年間の担任12名

中10名、同級生302名中33名である。（12月末現在）

古希を迎えた団塊世代

上杉 栄一（山17）

入学は、昭和38年、戦後のベビーブームの先頭集団、660名の仲間が東高の校門をくぐった。新学年は12クラス、クラスの呼称もそれまでのA・B・C組から1・2・3組に変わったのもこの年からである。ちなみに上学年は6クラスであった。教室不足から、同一校舎に収容することができなくなり、3クラスは学校敷地の南端にある平屋の教室棟を利用していた。雨の日は傘がないと職員室からたどり着けず、屋根のない渡り廊下を傘を差し、教室に向っていた先生の姿を思い出す。

思い出は東高祭、大変活発で、一週間にわたり文化祭や体育祭が開催された。運営はすべて生徒が行い、実業高校から転動してきた担任は、「すべて生徒がやってくれるので楽でいい」と言っていたのが印象的であった。

全学年クラスで競い合ったシンボル作成に皆が熱中した。国府町の同級生の家の山から竹を切り出し、前後2台の自転車に固定して学校まで運び、夜遅くまで作業に没頭した。女生徒は、学校に近い同級生の自宅の台所を借りて、おにぎりやみそ汁を作り、差し入れをした。中には学校に泊まる輩もいた。

運動会前日の全校生徒によるシンボルを担いでの市中行進は圧巻で、



最上学年になったの市中行進は、全学年35クラスが市中を練り歩き、その長さは約1kmに及んだ。市民からは大きな声援を頂いた一方で交通渋滞を引き起こし、その後3年生だけの参加となり、いつしか中止となった。

卒業20周年を機会に5年ごとに同窓会を開催し、昨年10月に3年ぶりで、9回目となる古希記念の同窓会を開催した。

また、関東、関西でも定期的に同期会を開催している。

私たちは、長い人生の中でわずか3年間の出会いであったが、70歳の古希を迎えた今でも同級生同士の固い絆は、多感な青春時代、ともに机を並べて勉強にいらした敵愾な事実があったからこそ、今につながっていると考え。

次回同窓会は、2年後、笑顔での再会が楽しみだ。

山脈37期同窓会

菅生 宏(山37)

2016年8月13日、居酒屋MO Rーのイベントホールで行われました。10年前に引き続き2回目の同窓会になりましたが、当日は県内外約90名の参加があり大いに盛り上がりしました。

東雲会全体の総会の当番幹事に呼ばれたのが1年前。その時、酒の勢いもあって数名の同級生と「来年やってみるか」という話になりました。その後、幹事団で数回打ち合わせをして計画を練りました。当初は参



加者も少なく、気を揉みましたが最終的には予想を上回る参加者になりました。

卒業してから30年たちましたが、仲間が出合えば気分は高校生！昔話で時の経つのも忘れ語り合いました。二次会は、まさかの定員オーバー。立ったままでも気の置けない仲間と楽しく過ごしました。

最後になりますが「楽しかった。」の声を聴くたび、やってよかったと、心から思います。数年後には、3回目を企画しているのかしら…。

卒業20周年記念同窓会

重山 良則(山47)

去る平成28年8月13日、10名の先生方にご臨席頂き、山脈47回20周年記念同窓会をホテルニューオータニ鳥取・鶴の間で開催しました。

県内外より166名の同期生が集まり、宴は若本君の開会あいさつ、谷口肇先生から当時の思い出などを交えたお話、菅生先生の乾杯で始まりました。同期生、先生方との歓談、全員参加のゲーム、当時の懐かしい写真のスライドショーと進み、最後は全員で校歌斉唱し、5年後の再会を約束し、あつという間に楽しい時間は過ぎていきました。

今回の同窓会を開催するにあたり、同窓会を企画した実行委員、参加を呼びかけてくれた仲間、進行を盛り上げてくれた司会の井上君等多くの同級生の協力があり、とても思い出に残る会にする事が出来、改めて同級生はすばらしいものだと感じる事が出来ました。



平成二十九年年度

進路状況

平成二十九年年度は、本校理数科が普通科との括り募集となり、定員がークラス減となった最初の学年の入試でした。また、浪人生自体が少なかったこともあり、国公立大学合格者数は一二三名とかなり減りました。特に鳥取大学に関しては前年度に比べ三〇名余り減と大きかったです。ほか、他の国公立大学については、ほぼ例年とおりの結果でもありました。

本年度は、新教育課程でのセンター試験も三年目となり、全般的には昨年並みの状況で、理系の理科の

負担が旧課程に比べ大きいことに変わりはありませんでした。本校生徒は、センター試験後もこれまでどおり、地道に学習を重ね、二次試験にチャレンジしていきました。

私立大学は受験者自体が例年よりかなり少なかったのですが、看護系の専門学校や地元公務員(警察・消防・県職・市職)については、受験した多くの生徒が合格していきま

	H25	H26	H27	H28	H29
国公立大	158	157	165	199	132
私立大	352	343	407	348	253
短大	42	31	39	20	30
専修学校等	52	72	65	83	63
計	604	603	676	650	478

主な大学の合格者数

大阪大学	2	岡山大学	13	同志社大学	7
東北大学	1	広島大学	4	立命館大学	10
九州大学	1	香川大学	2	龍谷大学	11
神戸大学	1	愛媛大学	3	同志社女子大学	3
千葉大学	1	鹿児島大学	1	京都女子大学	2
東京学芸大学	2	岐阜薬科大学	1	関西大学	12
鳥取大学	40	公立鳥取環境大学	10	関西学院大学	5
島根大学	12	下関市立大学	2	近畿大学	24

【全国大会】

部 名	男女	大 会 名	種目・成績等
柔 道	女子	全国高等学校総合体育大会 (鳥根県開催)	女子48kg級・出場、女子57kg級・ 出場
		全国高等学校柔道選手権大会 (東京都開催)	女子57kg級・出場
ボ ー ト	男子	第71回国民体育大会 (岩手県開催)	男子シングルスカル・第7位入賞
		第28回全国高等学校選抜大会	舵手付クオドルブル・出場、シング ルスカル・出場
放 送		NHK杯全国放送コンテスト (東京都開催)	個人アナウンス部門・出場、個人朗読部門・ 出場、団体テレビドキュメント部門・出場

【県高校総体】

部 名	男女	種目・成績等	備 考
陸 上 競 技	男女	入賞12種目(女子円盤投げ・ 優勝)	中国大会出場
高校総体駅伝	男女	男子第5位・女子第6位	中国大会出場
バスケットボール	男子	準優勝	
	女子	第3位	
バレーボール	女子	準優勝	
サ ッ カ ー	男子	第3位	
	女子	優勝	中国大会出場
柔 道	男子	団体3位	
	女子	団体準優勝	
	男女	入賞6種別(女子48kg級優勝・ 女子57kg優勝)	2名インターハイ出場
水 泳	男子	男子団体総合優勝	中国大会出場
	女子	女子団体総合準優勝	中国大会出場
	女子	個人優勝1種目	中国大会出場
	男女	入賞上記以外50種目	中国大会出場

【県高校総文祭】

部 名	男女	種目・成績等	備 考
邦 楽		団体優良賞(第3位)	近畿高総文祭出場
放 送		個人朗読部門・優秀賞	全国高総文祭出場
将棋同好会		第5位	近畿高総文祭出場

【各種大会】

部 名	男女	大 会 名	種目・成績等	備 考
バレーボール	女子	中国高等学校選手権大会	出場	
卓 球	男子	中国高等学校選手権大会	シングルス出場	
ソフトテニス	男子	鳥取県高等学校選抜大会	準優勝	中国大会出場
テ ニ ス	男子	鳥取県高校新人戦	シングルス準優勝	
			ダブルス準優勝	
サ ッ カ ー	女子	鳥取県高校新人戦	優勝	
弓 道	男女	中国高等学校選手権大会	個人2名出場	
	女子		団体出場	
書 道	団体	高等学校書道パフォーマンスグ ランプリ中四国大会決勝大会	出場	
		県高校書道展	連盟賞	平成29年度全国 高総文祭県代表
吹 奏 楽	団体	全日本吹奏楽コンクール鳥取 県大会	銀賞	中国大会出場
美 術	女子	鳥取県高等学校デッサンコン クール	佳作	

鳥取東高校は文武両道を掲げ、それを高いレベルで両立させようと、生徒・職員ともに日々精進しています。昨年度も多くの部が活躍しました。

文化部では、放送部が昨年度もNHK杯全国高校放送コンテストに3部門での出場を果たしました。惜しくも全国大会を逃した書道部ですが、書道パフォーマンス



受賞し、来年度の全国高総文祭の出場権を獲得しました。

昨年一番のニュースとなったのは、鳥取県代表として岩手国体に出場したボート部の近藤大樹君が、シングルスカルで7位入賞という成績を収めました。鳥取東高ボート部としては平成17年に行われた岡山国体以来の入賞となっています。

昨年のインターハイは相撲をはじめとする4種目が鳥取県で開催となりました。その中国総体出場にむけて『TEAM鳥取東』一丸となって臨んだ県総体でしたが、柔道部のみ出場となりました。その柔道部は2名の選手が個人での出場を果たしました。また今年度も全国選手権大会への出場権も獲得しました。

惜しくもインターハイ出場を逃したボート部はこの冬に全国選抜大会の出

水泳部では男子が3年連続の総合優勝。個人でも男女合わせて51種目が入賞し中国大会へと駒を進めました。

県内では常勝の女子サッカー部。全国まであと一歩の中国大会で悔しい結果となりました。

近年力をつけてきたソフトテニス部は、県選抜予選で第2位。中国大会では惜しくも敗退となりましたが、来年度全国大会への出場が期待されます。

県新人では、男子バスケット、女子サッ



カーが優勝し、女子バスケットボール部をはじめ弓道部、陸上競技部、水泳部など多くの部が入賞を果たし中国大会に駒を進めています。

その他にも県総体・県新人大会等での上位入賞や中国大会へ数多くの部が出場し、学校全体に活力を与えてくれました。また、学校内においても部に所属している生徒は挨拶・服装・礼儀などがしっかりしている者が多く、学校全体に締まりある雰囲気を作ってくれています。

各部活動が切磋琢磨することがお互いに刺激となり、ともに高め合う。大会結果を讀え



あい、そのプロセスの中で生徒・教員が繋がっていく。そして学校がひとつのチームとなり、『TEAM鳥取東』として今後も全生徒・職員がひとつになつて前進していくことを切に願っています。

近年、県外大会で同窓会の皆様の声援を受けることが多くなりました。全国大会の日程・会場等を、本校HPにて随時お知らせしております。今後も大会にぜひ足を運んでいただき、後輩たちを生の声で応援していただければ幸いです。



男子バスケットボール部

編集後記

竹島 一郎(山3)

卒業二十周年の同窓会と呼ばれる年齢となった。四十間近のいい大人が高校生に戻る傍らで、四捨五入すれば還暦を迎える我々担任団も「あの頃」の話題で盛り上がりつつある。

「事変を起すのやすく、収めるのは難し」というが、一人一人の進路に道筋を見つけていく作業は容易なことではない。その意味で担任団は労苦を共にした同志なのである。

その道筋が正しかったのかどうか。戦々恐々としながらクラスの輪に入ると、そんなことは気にもならなくなる。自分の人生を歩んでいる「生徒」たちがそこにいるからである。